

第32回全国わさび品評会(平成29年度)開催に向けて

本県のわさび生産は、長野県、静岡県に次ぐ主要な生産県です。特に「畑わさび」は生産量・品質とも全国トップで、毎年開催される「全国わさび品評会」においても「丸掘り部門」(茎・葉)で上位入賞しています。

平成29年度の第32回全国わさび品評会と第51回全国わさび生産者大会では、本県での開催が決定しています。

林業技術センター普及班では、全国わさび品評会の審査員として、各地の状況を見聞してきた運営方法等について、平成26年度島根県大会を中心に、岩手県わさび生産者協議会事務局の遠野市担当者に伝達しました。

1 全国品評会

全国わさび品評会は生産者大会と併催され、生産地での開催は、【市場⇒市場⇒主要生産地】という順番で開催されることとなっています。これまでの生産地開催は、静岡県③、長野県③、島根県③、岩手県②、山梨県①、群馬県①で、岩手県は平成元年6月の旧宮守村、平成17年8月の岩泉町での開催に次いで3回目の開催となります。全国品評会は国の農林水産祭参加行事として実施されており、特賞の根茎の部の最高点には農林水産大臣賞、次点に林野庁長官賞が授与されます。

2 平成26年度島根県大会

島根県大会は、益田市の島根県芸術文化センター(グラントワ)を会場に、10月22日に審査会、10月23日に生産者大会が開催され、「丸掘りの部」では、岩泉町の生産者が特賞の1位、2位を独占しました。

会場は、美術館と劇場が集まった豪華な複合施設でしたが、審査会場の広さが不十分だったり、水濡れの制約が多く、審査当日を受付期限

とするなど、運営に苦労が見られました。

3 本県の全国品評会に向けて

平成26年12月8日(月)に遠野農林振興センターにおいて、岩手県わさび生産者協議会事務局の遠野市職員と農林振興センター林業普及指導員に開催準備のポイントを伝達しました。

- ① 審査会場は、200点前後の比較審査できる広さと水濡れ等の施設の制約が少ないこと
- ② 全国の出品財の受付後の鮮度維持のため、審査会場の近くに冷温室等が必要
- ③ 審査時の陳列・表示・審査後の移動等に要する支援スタッフは30人程度必要
- ④ 「根茎の部」の食味審査には、審査員の口内を漱ぐ水が不可欠
- ⑤ 生産地開催を盛り上げる出品点数を増やすための生産者協議会の事前の取組み強化



4 今後の取組み

全国品評会の審査員の東京や大阪の青果市場担当者の話では、国内の有名産地では、市場関係者を招いて勉強会を開催し、市場と産地のパイプ作りをしているとのこと。

普及班では、今後とも全国品評会の審査を通じて、わさびの消費動向や他の先進産地の取組み状況の情報収集に努め、本県での全国品評会開催及び県内産地の生産振興への支援に努めていきます。